

京都産業大学探検部
山班冬季強化合宿

平成13年12月1日～2日
兵庫県神戸市東灘区、西宮市、宝塚市
(風吹岩～六甲最高峰～大平山)

計画の概要

期間：平成13年12月1日～2日

場所：兵庫県 六甲最高峰

目的：山班チーフの育成

公費：670円（内訳：1日夕食費、2日朝食・昼食費）

費用全般：3000円程（内訳：公費、初日の昼食費、交通費等を全て含めたもの）

参加者：[CL] 古塚 孝太 4回生 A型
 [SL] 高橋 彩 4回生 A型
 [装備] 浜本 ゆかり 4回生 O型
 [救急] 小川 祐史 1回生 A型
 [会計] 望月 美里 1回生 O型

12月1日	10:05	JR大阪駅集合	登山道はよく整備されておりハイカー多し。幕営地は予定を変更し一軒茶屋付近の駐車場にした。夕食後は最高峰で夜景観賞。視界良好。夜食の準備に手間取る。夜間は想像よりも冷え込んだ。防寒対策再考の余地有り。
	10:30	芦屋川到着（10分後山行開始）	
	11:05	高座の滝付近で昼食（20分）	
	12:15	風吹岩到着	
	13:40	雨ヶ峠到着	
	14:05	本庄橋跡に到着	
	15:10	一軒茶屋に到着	
	15:45	設営	
	16:30	登山技術の講習	
	17:40	夕食	
12月2日	21:40	夜景観賞、夜食	
	23:50	消灯	
	6:00	起床	朝日を見るため早起きするも折からの寒冷前線の雲に覆われて、断念。全般的には天気晴朗。予定よりも早く目的地に着いてしまった。
	7:30	朝食、徹営	
	9:00	出発	
	10:00	船坂峠到着	
	10:35	大平山付近で昼食（60分）	
	12:50	塩尾寺到着	
14:00	阪急宝塚南口にて解散		

山行コース

1日：芦屋川駅～80分～風吹岩～60分～雨ヶ峠～60分～本庄橋跡～60分～

～一軒茶屋

2日：一軒茶屋～50分～船坂峠～60分～大谷乗越～50分～塩尾寺～40分～宝塚駅

食料計画 [1日] 昼食(各自持参)、夕食(すき焼、ご飯)、夜食(ぜんざい)

[2日] 朝食(パン、ポタージュ、ウインナー)、昼食(行動食、ポカリ、みかん)

団体装備：テント(mont-bell)、コッヘル(1)、バーナー(2)、ガス缶(3)、

ランタン(1)、救急セット、キッチンセット

個人装備：シュラフ、断熱マット、雨具、軍手、ヘッドランプ、替え電池、替え電球、

非常食(カロリーメイト)、ベッセル、食器、米1合、タオル、着替え、

保険証コピー、学生証、計画書、トイレトペーパー、ポリタンク

現地緊急連絡先：兵庫県警東灘署 078-854-0110

東灘消防署 078-843-0119

神戸市立中央市民病院 078-302-4321

登山技術の講習

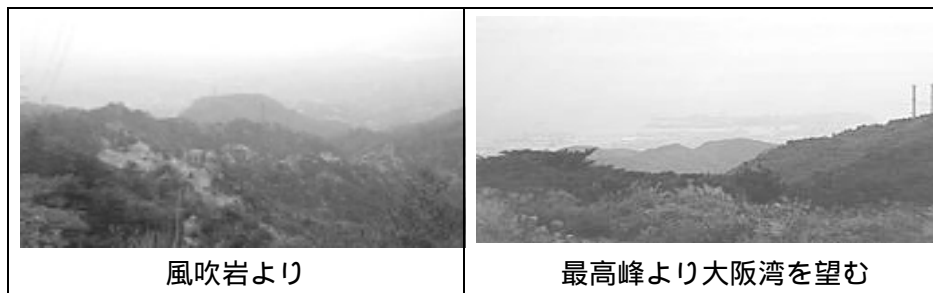
来年度、山班チーフとして活動できる最低限の知識を一回生に講習した。内容は、地形図とエアリアマップの用途の違い、シルバーコンパスの使用方法和用途、地形図の判読方法、磁北線の引き方とその意味、登山ルート設計時の注意点、ビバーク方法、救急時のもやい結び、直接圧迫法と止血帯による止血法とその注意点、止血点の場所と方法、上腕部骨折時と頭部挫傷時の三角巾の使用法、メタや非常食など緊急用品の説明、など。

他ページにて詳細を掲載。

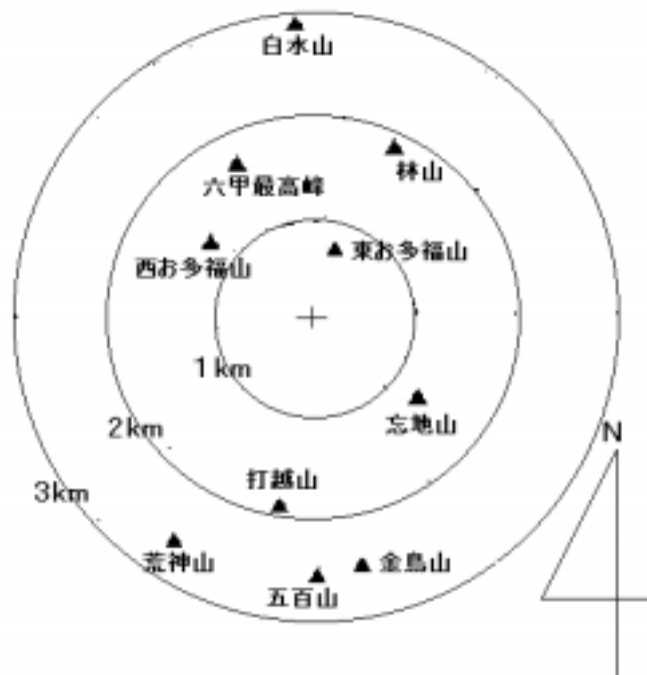
六甲最高峰について

(<http://www.page.sannet.ne.jp/kmura/>)

最高峰は標高931.13m、北緯34度46分29秒、東経135度15分59秒、明治19年に一等三角点の標石が置かれた。山頂は第二次大戦後、米軍によって管理されパラボランテナが設置されるなど、我々一般人が足を踏み入れる事は出来なかったが、'92年に返還、パラボランテナも撤去され、ハイカーも自由にその頂上を踏めるようになった。山頂は広々して所々に台座のような石が置いてある。



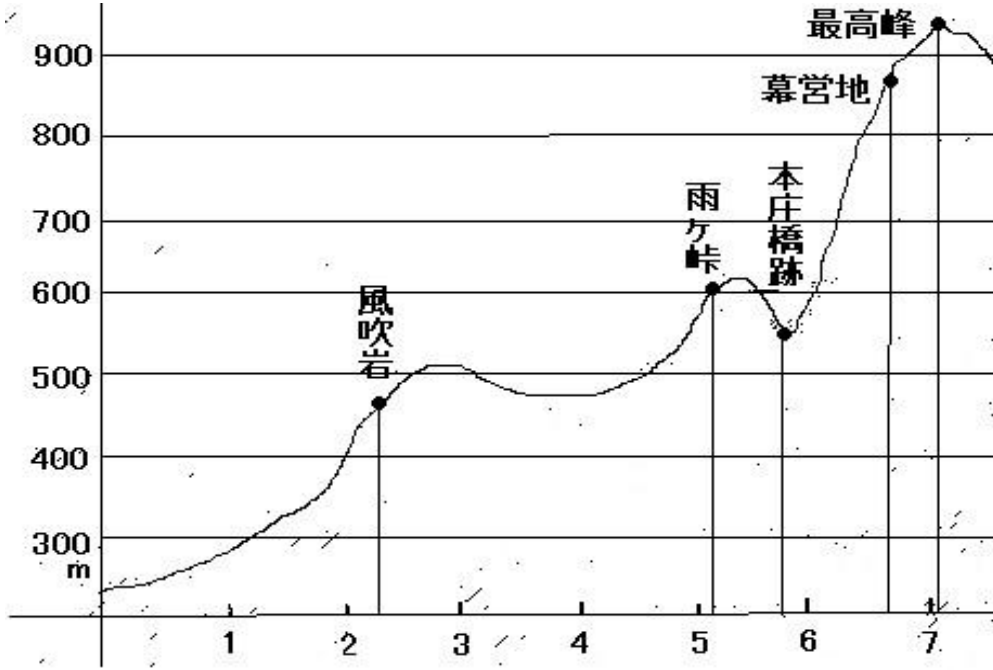
展望図



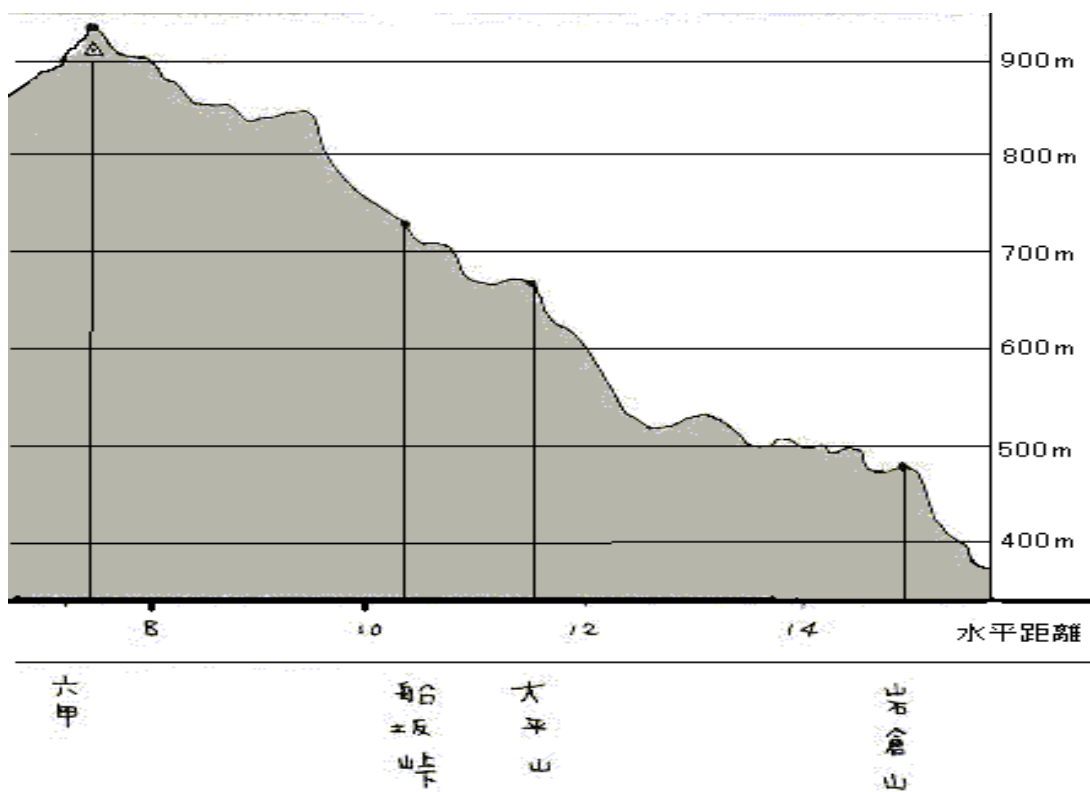
中心点は雨ヶ峠

昇高図

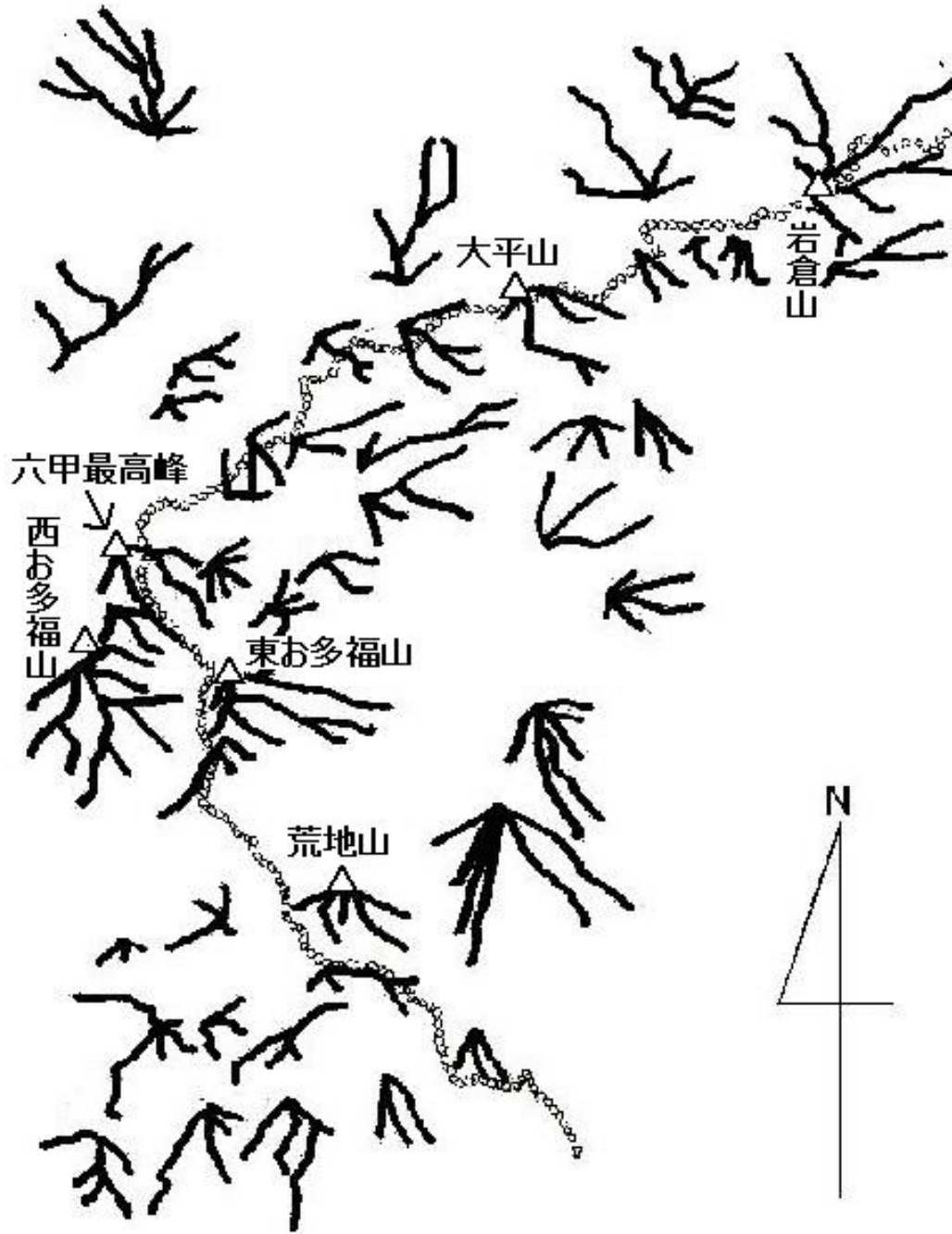
(12月1日のコース)



(12月2日のコース)



概念図



..... が山行コース、黒線が尾根

登山講習の内容

はじめに

山班は2000年に新設されたため、他班に比べ歴史が浅く、技術や人材も脆弱なのが現実である。今回の合宿において、1回生にチーフリーダーとしての最低限の登山技術を講習したつもりであるが、本来なら2年間で習得するものを短時間で教えたため、本当に習得できたかどうか疑問が残る。そのため、報告書の主旨とはかけ離れているのを承知の上で、敢えて講習内容を掲載した次第である。来年度、今回の合宿に参加した1回生が後輩を育成するにあたり、この報告書が少しでも参考になれば幸いである。

平成14年1月8日

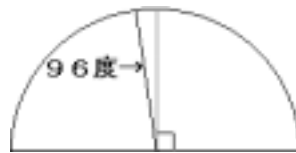
古塚孝太

磁北線とは

地図上の北は誤差が生じており、これを修正するのが磁北線である。地形図の端を見ると西偏6°などと記載されている。これが磁北線の角度にあたる(場所により角度は異なる)。

西偏とは

読んで字の如く西への偏りである。つまり北から見て西へ6度の線が、西偏6°という事。分度器で見た場合、北は90度だから西偏6°は96度になる。この線が磁北線。



分度器上での西偏6°

磁北線の記入

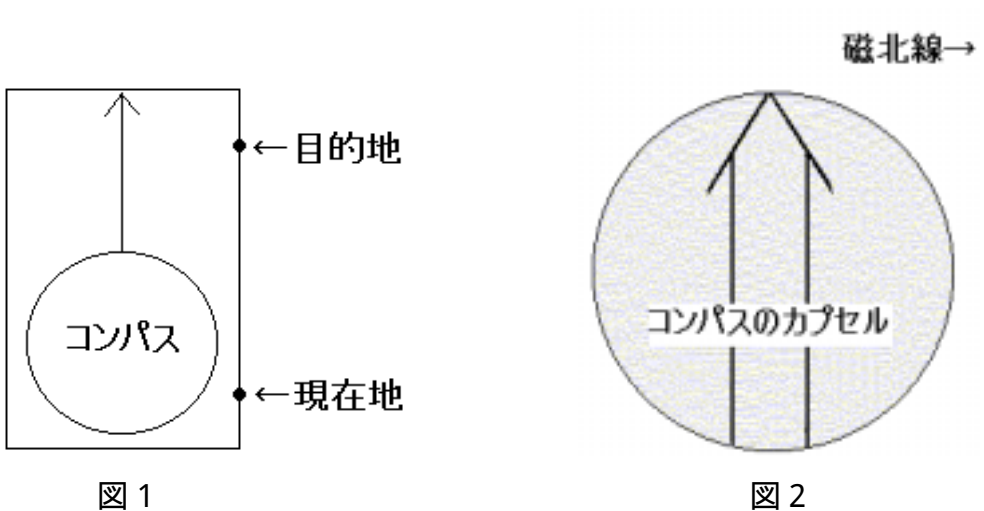
合宿に行く前には必ず地形図に磁北線を記入するように。でないと、コンパスを持って行ってもほとんど意味を為さなくなる。

前項で説明したように分度器を使用する場合、角度は96度となる(西偏6°の場合)。これを地形図に2~3本ほど赤色のボールペンで記入していく。



シルバーコンパスの使い方

まず、コンパスの端を地形図上の現在地と目的地との線上に置く（*図1を参照）。次にカプセルを回転させ、カプセル上に描かれている赤い矢印と磁北線とを平行にする（*図2を参照）。あとは、コンパスの北針がカプセル上の赤い矢印に重なるように体を回転させればいい。この時、体が向いている方向が目的地への方角である。



コンパス使用上の注意点

- 1、地図は必ず上を北に向けて使用すること。でないと、180度逆になり、正反対の方向へ進んでしまう。特に道に迷った時は焦っているので注意。俺は一回このミスを犯した事がある。
- 2、コンパスを使用する場合はこまめに見ること。もし30分以上も見てなかったら、もう一度計り直すように。でないと、全然違う所に行き着く。



と 同じ方角であるが、たまにしか見ないと図のように全然違う場所に行ってしまう。

道を見失った時の対処法

道に迷って現在地が分からなくなった場合、必ず元来た道を戻ること。決して前進してはならない。もし日が暮れて暗くなった場合は、その場で幕営し朝になってから帰るように。元来た道に戻れない場合は、稜線まで登るほうがいい。稜線には登山道がある場合が多いし、展望も開けているので現在地の確認がし易い。谷間には決して下りないように。川や滝に進路を塞がれ、最後には疲労凍死する可能性が高い。また、谷間に下りるほど現在地の確認が難しくなる。

俺個人の経験では、迷った時はパニックになりやすい。特にチーフをしている時はプレッシャーで頭がいっぱいになり、がむしゃらに前進してしまう。とにかく「**迷ったら戻れ**」。

ビバーク方法

ビバーク（緊急野営）する必要がある状況とは・・・

山中で一人になった場合。テントが使用不能になった場合。テントを持っている人間がパーティから離れた場合（滑落とかでね）。雪山等でテントが使用できない場合。

・・・など。このような状況になった場合は、ツェルト（簡易用テント）を使用する。もしツェルトが無い場合はテントフライやグランドシートなどで代用する。雪山の場合は、縦穴を掘って穴の上にツェルトを被せる。で、ロウソクやランタン等で暖をとるようにする。これで1日や2日は十分生きられる。

ビバーク場所の選定も重要。雨や吹雪が激しい所では体温を奪われるため、なるべくこのような場所は避けること。また、雪山の場合は雪庇や雪崩にも注意するように。ビバークに適した所は吹き溜まりになっている場合が多く雪庇が出来易い。また雪庇の落下に伴う衝撃で表層雪崩が起きることもある。事前に弱層テストなどで安全を確認するように。

（*弱層テストや雪山でのビバーク法は平成14年度第二次雪山合宿にて講習予定）

おまけ（講習ではないですが）

もし、合宿に不安があったり危険度が高い山に行く場合は、山岳保険に加入することを勧めます。1年契約の保険に入るのがベストだが、経済的にきつい場合は合宿中だけ加入すればいい。夏山対象の場合は3泊4日で一人500円から加入できる。雪山対象の場合は1300円から。

万一遭難した場合、救助ヘリを出すと100万～200万はかかる。他にも、捜索隊を出した場合は経費や謝礼が必要になる（救助隊は無料）。全て含めてほしい300～400万は必要と言われている。最近は特に引率者への損害賠償請求が増えており、保険に未加入で山に行くリスクは大きくなっている。

後輩の命を預かるリーダーは、保険に加入するののも一つの責任・・・かもしれない。

感想文（原文のまま掲載）

1回生 小川 祐史

今回の合宿で12月だろーが少しぐらいいさむかろうが山合宿ができるというのが証明できた。これからは季節を気にせず合宿を計画したいです。

1回生 望月 美里

今回の合宿のイチ押しは、100万ドルの夜景といわれる神戸の「夜景」とごうかな「夕食」。食材を持ってきてくれた古塚先輩と、頂上まで卵を守りぬいてくれた浜本先輩に感謝感謝。味はもちろん激うまでした。そして、夜景を見ながらぜんざいを食べてほっこりいくところが、予定違いで坂道ダッシュのあとのぜんざい。とても熱い夜でした。でも、やはり100万ドルといわれるだけあって、夜景は今まで見た中で、一番キレイでした。こんなにすごいプランで公費が安いのにはびっくり。他にも地図の見方や、救急、細びきの使い方などのこうしゅうがあり、合宿自体とても充実してました。ぜひ、また来年 六甲山の山合宿をしたいです。その時には行動食のおやつも忘れないようにしないと……。

4回生 高橋 彩

久しぶりに参加してみた山合宿。思ったとおり登りはきつくて限界を感じました。ほんとしんどかったです。

でも夜ゴハンのスキヤキでかなり元気をとり戻し、頂上から神戸の夜景をみた時はとてもキレイで来てよかったなぁと思いました。

1回生 荷物をいっぱい持たせてしまってたゴメンナサイ。そしてありがとう。楽しかったです。

4回生 浜本 ゆかり

六甲山頂上での夜景がとってもきれいでした。景色を見たら、その時までの疲れがなくなる勢いの美しさでした。一生のうちに後数回は訪れたい場所です。体力が続く限り……頂上で食べたおしるこもかなりいけてました！！

4回生 古塚 孝太

白菜が重かった。高橋が怖かった。夜寒かった。小川が寝言を言ってた。